

青少年もがみ

第15号 平成24年2月1日

— 発行 —

最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会
最上地区青少年育成推進員連絡協議会



「地域の『絆』を大切に、共に育つ」

最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会会長 矢口 信一

3月11日、千年に一度という未曾有の東日本大震災が発生しました。被災地における地域、社会、そして一人ひとりが共に生きるという課題に、力を合わせ励まし合い懸命に復興に立ち上がっている姿に、人と人との「絆」の大切さを改めて実感しました。そのような中で、ボランティア活動、国内外に広がった支援の輪で、復興への確かな展望と希望の光が見えてきました。

さて、平成23年度「山形県青少年健全育成県民大会」が、山川博史県民会議新会長の下、10月末に最上地区で開催されることとなりました。大会実行委員会を設立し、「新庄・最上らしい心に残る大会」を掲げ、準備を進めてきました。新庄市出身の「また君に恋してる」等の作曲家、森正明氏による講演や新庄市内の女子中学生2名（「第50回山形県少年の主張大会」上位入賞者）による主張発表を企画しました。大会当日、ふるさと新庄への思い、家族・学校での絆、人の命の尊さ、東日本大震災を通して感じたこと等、素直な着眼と感性豊かな堂々とした発表は、新庄市民プラザ大ホールを埋め尽くした全ての方々に、深い感動と共感を与えたようでした。

また、12月に開催しました「最上地区青少年育成懇談会」の席上、高校生が日常生活で感じていること、震災後の地域でのコミュニティーの重要性や支え合う絆の大切さについて、大いに語ってくれました。大震災を我がことのように真摯に受け止め、募金や物資を送ったり、また、現地へ支援ボランティアとして直接足を運ぶ等、素晴らしい行動を起こしている高校生が多くおられたようでした。

この大震災で、平凡な生活がいかに有り難いことかを噛みしめ、これからも引き続き皆様方との「絆」を大切に、「共に育つ」を目標にして地域力の向上に励もうではありませんか。

平成23年度 これまでの主な事業

※青少年もがみ第14号掲載以降

少年の主張最上地区大会

- 8月30日（火）9：30～ 新庄市立萩野中学校
- 最上地区内14中学校から1名ずつ出場（男子3名・女子11名）し、うち5名が9月の最北地区ブロック大会への出場権を得る。
- 最優秀：新庄中3年 真木 碧惟
- 優 秀：戸沢中3年 佐藤 朱音
- 優 良：日新中3年 門脇 真実
- 萩野中3年 奥山 直
- 真室川中2年 柿崎花菜子

全国「子ども・若者育成支援強調月間」

- 11月1日（火）～30日（水）
- 趣旨：子ども・若者の健やかな育成、子ども・若者が社会生活を円滑に営むことができるようにするための支援や取り組みを行う。
- 取組み：『大人が変われば子どもも変わる』運動と兼ねて、各市町村で強調運動を展開。最上総合支庁では、庁内放送で職員や来庁者に呼びかけ、また、広報車による最上地区内街頭広報活動を実施。

最上地区「青少年育成推進員研修会」

- 11月26日（土）14：00～
- 戸沢村「中央公民館」・「ぼんぼ館」
- 育成推進員の永年表彰（最上総合支庁長名）
- 最上町：菅 孝氏

- 講演「最上の自然をテレビで紹介して」
～埋もれた自然の宝庫、我が郷土～
講師：鮎川村社会教育指導員 矢口 末吉氏
- 参加者：青少年育成推進員等50名、来賓等3名

最上地区「青少年育成懇談会」

- 12月10日（土）9：10～ 新庄市民プラザ
- テーマ「さすがに大人は手本、青少年もなかなかやるね パートⅡ」
- 高校生と青少年育成関係者86名が参加
- 50文字提案を基に6グループで懇談
- 高校生の感想
「親・先生などの身近な大人以外の意見を聞く貴重な機会でした」「大人はこう考えているんだなあ」と初めて知り、楽しく懇談できました」「大人や年上の人と話す場を増やした方が良い」



最上地区「青少年育成推進員研修会」



最上地区「青少年育成懇談会」